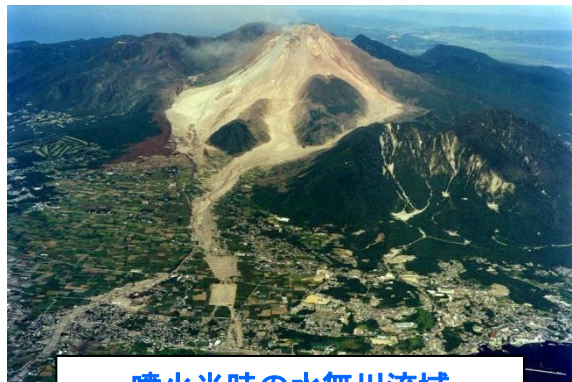


55 緑を復元した雲仙・普賢岳の治山事業

長崎県（島原市、南島原市）



噴火当時の水無川流域



水無川流域
治山ダム群の設置
(平成18年撮影)



中尾川流域
治山ダム群の設置
(平成11年撮影)



航空緑化工の実施
(平成7年撮影)

ボランティアや
地元関係者による
森林整備
(平成14年撮影)



水無川流域 (平成16年撮影)

○所在場所

長崎県島原市・南島原市

○施設・工法の概要

治山ダム工97基（スーパー治山ダム等を含む）、航空緑化工490ha（スラリー工法ほか）

○解説

平成3年6月以降、雲仙・普賢岳からの火山噴出物やドームからの溶岩塊の崩落岩が土石流となって水無川や中尾川、湯江川を流れ下り、大きな被害が何度にも渡り発生しました。再度の災害を防止するため、警戒区域においては遠隔リモコン操作による無人化施工が実施されるなどにより治山ダムが施工されました。また、大規模土石流の発生が懸念されたため、当時国内最大規模のスーパー治山ダムが施工されました。その後発生した土石流はすべて治山ダム等により抑制されており、今日に至るまでその効果は発揮されています。

併せて、失われた森林を早期に復元するため、草類やマメ科を中心とした泥状の液体に菌根菌等新しい資材を混入する「スラリー工法」や「乾式工法」などの航空緑化工も実施され、近年ではほとんどが植生に被覆された状態となっており、大規模な山腹斜面の侵食は見られないようになりました。

また、ボランティアや地元の関係者が主体的に参画しながら「防災の森」などの緑の復元も進められています。

